

●生物産業学部海洋水産学科（中一種免（理科）・高一種免（理科））

①教員養成に対する理念

本学の教育理念である"実学"の精神を授業に取り入れ、中等教育の理科授業や体験授業を指導できる理科教員を養成するよう努めている。さらに、昨今の教育問題である「心の教育」やいじめ、引きこもりなど人間関係に起因する諸問題に学科の特色をいかし適切に対応できる教員、総合的な学習の時間や環境教育の指導に意欲的に取り組む教員、理科離れの解消に向けて努力する教員、生徒を指導する教職者としての高い意識を持つ教員の育成を目指している。

②教職課程の設置趣旨

海洋水産学科では、多様な水圏資源・水圏環境について生態系、産業システム、環境循環系に関する理論と専門知識を習得しながら、水圏資源の持続的増殖・管理、水圏生物の機能特性の解明、および新産業・技術の創出、さらに水圏環境の解明とその保全を目的とした教育研究を展開し、地球規模での環境・食料問題の解決に貢献できる教育研究を目指している。そして、さまざまな業種の企業・団体が重要視する「産業と自然環境の共存」というフィールドで、実践的に活躍できる人材の育成を図ることが目的である。

本学科の教育の特色としては、単に水産学を展開するのではなく、海・川・湖沼などの水圏の生態系や環境を農業・林業・水産業との関りで総合的に研究して、自然や資源を持続的に保全してゆく方法を科学し、解明することである。具体的には、豊かな水産資源と自然環境を誇るオホーツクの海洋や河川を舞台として、水圏生物の遺伝子解析から生態調査、さらには人工衛星などを利用した環境モニタリングなど、幅広いスケールで多角的に科学し、水産資源や水圏環境の保全・管理に関する専門知識を身につけることができる。

教育システムとしては、

①学部共通科目に基礎生物、基礎化学、基礎数学、語学教育を配し、教養の基礎科目を修得させる。

②学科の専門基礎科目には、生物学・環境学の基礎を修得させるための講義や実験とともに、水産と海洋の科学史、水圏増養殖学、海洋水産学概論、野外調査学等を配し、学科の教育目的と意義すなわち、「産業と自然環境の共存」を理解させ、このフィールドで活躍できる人材養成のための基礎教育を行う。

③学科の専門コア科目として、水産共生分野には、水圏生物化学、氷海の生態学などの水産動植物の生態解明、水産資源の持続的利用、人間と野生生物との関わりを理解・実践するための講義・実験・実習を配する。水圏フードシステム分野には、魚病学、藻類増養殖学などを通して水圏における生物多様性、増養殖技術開発や魚病防除などに関する講義・実験・実習を置いている。

以上の学部共通科目、学科専門基礎およびコア科目の中には、広く理科教育に関連した科目が多く配当されており、海洋水産学科においても理科（中学校一種、高等学校一種）の教員免許状取得のための教職課程を設置している。

《目指す理科の教員像》

学習指導要領に示されている理科教育の目標を正確に把握し、「心の教育」をはじめとする生徒指導、教育相談も忘れず、本学の教育理念である“実学”の精神を通じ、理科授業における観察や実験、自然体験を積極的に指導し、更には、社会ニーズである「産業と自然環境の共存」について、本学科において培った知識により、その重要性を生徒達に伝えることの出来る教職者として意識の高い理科教員を目指す。